

まもるくん通信

交通事故ゼロ・苦情ゼロを目指して

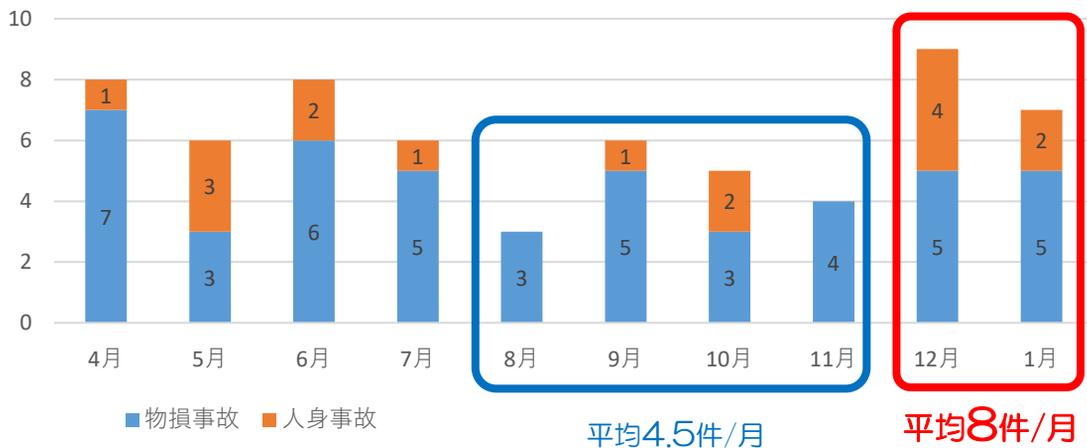
第11号

令和6年3月14日発行



事故件数が増えています

年末年始は、ほぼ倍増状態



許可業者が関わる交通事故の件数が大きく増えています。

夏から秋にかけては減少傾向にあり、8~11月の平均月間事故件数は4.5件とやや少なくなっていたものが、**年末年始の時期には月平均で8件と大きく増えてしまいました。**

平時と比較し、年末年始はごみの排出量や交通量が増えますが、「あせり運転」状態に陥らないよう、一つひとつの運転動作を丁寧に行ってください。

交通事故発生の防止には、安全運転の徹底に加え、ヒト(運転手)とモノ(車両)の点検を継続的に行うことが大切です。

特に、ごみ収集作業員が交通量の多い市街地で連日運転を行うなか安全に業務を遂行するためには、**作業開始前の綿密な体調確認**が必要になります。記録表などを活用し、運転手の体調に変化があった際すぐ気づけるよう工夫しましょう。



	4月1日	4月2日	
アルコールチェック	✓	✓	
睡眠時間	6.5	7	
備考		少し倦怠感あり	

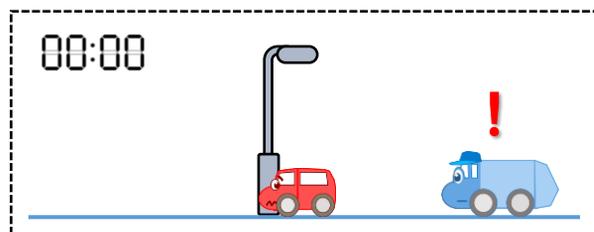
- 原則、体調確認は対面で実施すること。
- 記録表は必ず保存すること。

◆車間距離の目安は“同じ位置まで2秒”

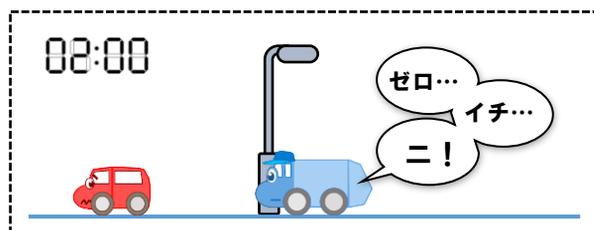
自動車同士の交通事故のうち、最も多いと言われているのが追突による交通事故です。

許可業者が関わる交通事故でも、今年度発生した62件の内11件が追突事故です。（1月31日現在）

原因としては、前方車両の急ブレーキや後方車両の前方不注意等様々なパターンが考えられますが、いずれの場合でも、車間距離を十分に確保することで事故の発生を防止することが可能です。



前方車両が通過した地点まで
2秒かかれば車間距離OK



適切な車間距離は車体の重量や路面状況に応じて変わるものの、おおまかな目安として、「**前方車両が通過した地点を通るまでに2秒かかる**」距離を確保していれば、不測の事態が発生した際もブレーキ等の対応が間に合うとされています。

道路標示や街灯等を目印に、十分な車間距離が確保できているか定期的に確認するように心がけましょう。

雨天時や高速道路上ではブレーキの制動距離が延びるため、車間距離を通常より広く「3秒」程度確保すると安全性が向上します。

また、ごみ収集車の多くは普通乗用車より車体が大きいため、車間距離が短いと**前方車両の後方視界を塞いでしまったり、威圧感を与えて「あたり運転」と誤解されたりする**可能性が高いです。交通事故対策のみならず、周囲のドライバーからの苦情を削減するためにも、徹底して車間距離に余裕を持たせるようにしましょう。

【コラム】正しく運用 ドライブレコーダー

交通事故等が発生した際、ドライブレコーダーの映像は事故当時の状況を正確に把握する上で貴重な情報源になります。

本市では、承認車両にはドライブレコーダーを設置して1週間分の映像を保存し、必要に応じてそれらの情報を一般廃棄物指導課へ提出するよう定めています。実際に確認を求めた際も、ほとんどの場合は必要なデータをご提出いただけていますが、時折設定等の不備により映像として保存できていないことがあるようです。改めて以下の点に注意し、ドライブレコーダーを適切に運用してください。

・「常時録画」モードで運用する

ドライブレコーダーの機種によっては、衝撃等を感じた時にのみ録画を行う「イベント録画」モードに初期設定されていることがあります。平時の運転状況の確認を要する場合もあるため、走行中はずっと録画を行う「常時録画」モードに設定してください。

・記録媒体のデータ容量を確保する

映像を記録する媒体(SDカード等)の容量が少ないと、すぐに新しい映像で上書きされてしまいます。大容量の媒体や複数の媒体を使用することで、1週間分の映像を保存できるようにしましょう。

